

★ 自治体の一時借入金 ★

地方自治体が一時的な資金不足を穴埋めするため、一会計年度内に返済することを原則に銀行などの金融機関から借り入れる短期資金。年度を超えて返済する地方債とは異なり、歳入歳出予算には借入限度額しか

時の言葉

計上されないため、実態がつかみにくい。財政再建団体への移行を表明した北海道夕一時借り入れを繰り返すことで市の標準的なをはるかに上回る600億円以上もの実質的なえたが、単年度収支は黒字となっており、「赤字隠し」を行っていたとみられている。

県立中央病院 専門医不足で対策

石川県立中央病院(金沢市)は八月から、地元開業医に夜間の小児診療を代診してもらおう地域連携診療を始めた。夜間や休日の当直勤務が月に八回程度あり、なかなか休めない小児科医の負担を軽減するのが目的。全国的な小児科医不足から地域連携診療を模索する動きが各地で進んでいるが、北陸三県で実現したのは初めて。(城島建治)

夜間の小児科  
開業医が代診

県立中央病院の小児科 医師は現在、副院長の久保美医師を含めて九人。原則として二人が夜間や休日の当直勤務をしている。夜間と休日診療を担う病院の救命救急センターには年間二万三千人が訪れるが、うち三割を超える約七千人を小児科医が診察している。久保副院長は「夜間の患者が多いと宿直医は仮眠できず、三十何時間も連続で働くこともある」と打ち明ける。



夜間の小児診療に協力する渡部禮二医師(左)=金沢市の県立中央病院で

3県初「地域連携診療」

び掛け、五月から地域連携診療を試行。八月から協力しているのは九人で、毎週水曜日の午後七時から同十一時まで受け持つ。これにより、病院勤務医一人のうち一人が休めるようになった。夜間診療に協力する渡部禮二医師(金沢市)は「県立中央病院に八年ほど勤務したことがあるが、当直が多くて体力的にきつかった。開業医を含めた小児科医みんな夜間診療を担う体制にならないと、なり手がいない」と指摘した。

東二の夜行

連携

ミナーに招く。

加賀地区の鉄工機電業